

金曜の会報告

- 1 期日 3月6日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O、AK、TA、YO、AR
- 4 内容
 - ・教材解釈『こわれた先の楽器』

東京書籍新教材の、教材解釈シリーズです。

変化1 「ねむっていました」→「目を覚ましました」

ほこりをかぶるほど長い眠りから目を覚ました。

しかも、楽器「たち」が。

よっぼどのことがあった。

その原因は「その声で」。

声の大きさなのか？中身なのか？

変化2 「こわれた楽器」→「これはどうも失礼」

その、眠りを覚まさせた月は、「こわれた楽器の倉庫だな」といいながら、「いやいや、これはどうも失礼」ときまり悪そうにした。

失礼と判断したきっかけは？

チェロの言葉？チェロが背中をかくしたこと？

チェロの言葉であれば、チェロの言葉の後に「いやいや～」と来るはず。

チェロの言葉があり、「そして」背中をかくした。

その後に、「いやいや～」と月は言っている。

ということは、月はチェロが背中をかくしたのを見て、失礼なことをした（言った）と判断したということ。

失礼な「これ」は、月が言った言葉なのか？背中をかくしたのを見たことなのか？

もう少し、考えたいと思います。

後半は、この作品の最も大きな変化についての解釈。（AR）

新教材を前にして、まず何をするか？この問いから、スタートしました。登場人物の言動の変化だとか、つじつまが合わないことだとか、こういった違和感をもつことが大切です。1段階と19段階との関係に着目して、解釈を進めていきました。

後半では、15～17 段階で音が出るという変化が生まれ、更に 18～19 段階では音楽をつくるという、楽器の変化が生まれます。特に月目線で書かれた 19 段階には、興味深い言葉がたくさんありました。『前にのぞいたことのある』からは、月の『まさか!』という驚きが見取れます。また、『千の楽器』という表現からは、なぜ千なのか？ 適当に言ったのか？ 月が数えたのか？ といった疑問が湧きました。さらに、『こわれた楽器は一つもありません。』では、千もあれば一つくらいこわれていてもおかしくないのに、なぜこう言い切れるのか？ 一つ一つ見たのか？ 見ていないのか？ 見ていないとすれば、どうしてこう判断できたのか？ 不思議でした。

『こわれた楽器は一つもありません。』から『りっぱな楽器』と認識が変わった原因として、『おたがいに～音楽をつくっているのです。(驚き・感動)』との関係を考えました。

『いいな』の基準も謎でした。

最も驚かされたのは、21 段階です。『思い出しては、』ということは、忘れていたことがあるということです。何を忘れていたのか、A 音楽 B 光の糸～、B 光の糸をふきあげる仕事を忘れるほど、月が楽器たちのつくる音楽に聞き惚れたということです。『そして、』の存在も見逃せません。 (Y0)